

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)	
授業科目名: ボランティア実習 英語表記: Practice to Voluntary Action ナンバリング: 1007			単位数: 1単位 (半期) 実習	担当教員名: 高橋努 担当形態: 単独
科目/系列		/ 教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目		/ 外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. ボランティアとは何かを知り、なぜするのか、どのようにするのか、そのための具体的な取り組みはどのように行うのか(活動の立案、安全な実施、終了後の自己評価、次への改善)についてボランティア活動を通して「ボランティア活動とは何か」を体験的に理解できる。 2. ボランティア活動を行う中から、自らのボランティア観で行ったボランティア体験の中からその過程や結果が発信できる。 3. ボランティア活動の意義を自らの経験から説明し、未経験者にアドバイスができる。				
【授業の概要】 参加したボランティア活動についての計画・活動・検証・反省などの発表・討議を中心に授業を構成する。また、実習の事前・事後指導が重要と考えて講義とグループワークで行う。				
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性
【知識・理解・技能】				
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。				
【思考・判断・表現】				
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。				○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。				
【関心・意欲・態度】				
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。				
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。				○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。				○
【授業計画】 <座学授業> ボランティア実習に関する事前学習として、活動への参加から報告までの流れについて授業を行う。 また、実習終了後に、事後学修として、自身のボランティア活動を整理し、まとめたものを成果発表する。(授業回数としては、3回もしくは、4回程度。授業日については事前に連絡する) <ボランティア実習> ボランティア実習は、24時間の活動時間を必須する。1回あたりの活動時間は、2時間以上とする。 1月の授業期間内に、成果発表会を行う。 定期試験: なし			【授業時間外の学習】 次のような調べ学習と振り返りを授業後または、実習後に1時間程度行うこと。 (合計 15 時間) ・図書館やインターネットでの調べ学習。 ・関係機関等への問い合わせ、本学の掲示板、インターネットでボランティアをさがす。 ・ボランティア団体等とアポイントをとる。 ・必要な書類の準備と記入。 ・お礼を兼ねて団体に出向いて証明を受ける。 ・実施後「活動の記録(1)(2)」を作成・提出する。	
【授業の方法】 座学授業については、グループワーク形式で行う。授業で実習までの経過発表や体験発表を行う。活動への参加は、教員から指導を受けてボランティア活動先を探し、事前にボランティア活動計画書と所定の「ボランティア参加許可願」を提出する。ボランティアを実施する過程で「活動の記録(1)(2)」を				

作成し、プレゼンテーションする。プレゼンテーション後、ディスカッションをとおしてフィードバックを行う。	
【テキスト】 特定のテキストは使用しない。	
【参考書・参考資料等】 授業時間内に適宜紹介する	
【学生に対する評価】 活動内容の記録（50％）・活動発表（30％）・授業参画度等（20％）による。 ※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。	
【履修上の注意】 ボランティア実習を履修する学生は、「ボランティア概論」の履修の単位取得が必須条件である。実習総時間数24時間のボランティア活動が期限までに終了出来ないときは不合格となるので、計画的にできるだけ早い時期の実施に留意する。教員との「相談・連絡・報告」が重要となる。	
実務経験の有無：有	実務経験：高齢者施設等でのボランティアの受け入れ等
【実務経験を生かした教育内容】 高齢者施設等でのボランティア受入れの実践経験をいかし、具体的事例をもとに授業をする。	